

TOPIC 市立西中学校ハンドボール部が快挙!

この春に行われた「第16回春の全国中学生ハンドボール選手権大会」において、市立西中学校ハンドボール部女子が「全国優勝」を、同部男子が「全国第3位」に入賞しました。女子は、準々決勝の福井戦はラスト1分で同点に追いつかれましたが、「絶対に勝つ!」という気力が、試合を決める1点につながりました。



優勝に沸く笑顔のハンドボール部女子

男子は3回戦で優勝候補とあたり苦戦を強いられましたが、大会を通して、「試合の中で戦い方を改善していく修正力を身に付けた」そうで、今後の試合につながる大きな財産を手に入れました(西中学校Webサイトから)。

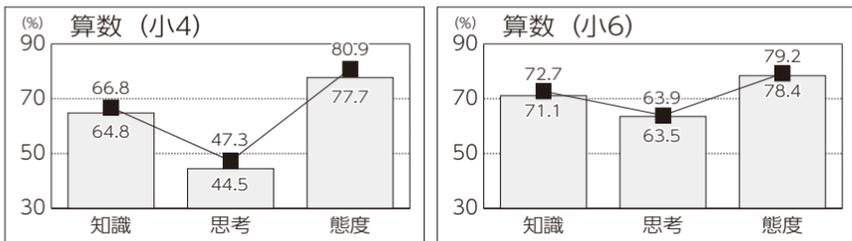
令和2年度東久留米市「学力定着度調査」結果 ～国語と算数・数学の学力の伸び～

【実施日】 令和3年2月5日(金) 【調査教科】 国語・算数(数学)
【対象】 小学校第2・第4・第6学年、中学校第2学年
《表2 平均得点率》

教科	学年	(小)第2学年	(小)第4学年	(小)第6学年	(中)第2学年
国語		74.2(73.1)	66.6(69.0)	67.9(70.1)	64.1(64.1)
算数・数学		68.5(70.6)	54.7(57.1)	67.3(68.3)	61.3(59.5)

※ゴシックは東久留米市、()は全国

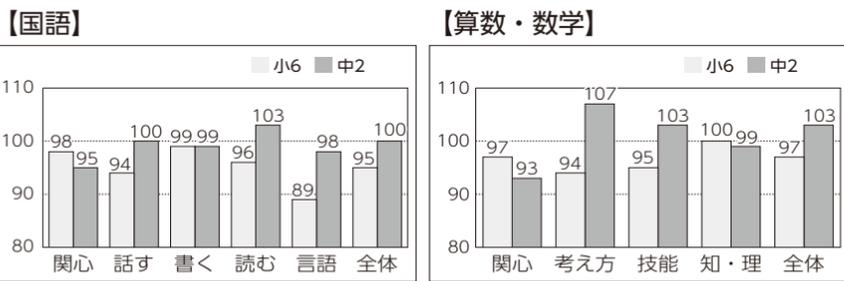
《表3 算数(小4)及び(小6)の観点別平均得点率》



※棒グラフは東久留米市、折れ線グラフは全国

《表4 「学力定着度調査」結果～学力の伸び》

平成30年度の小学校第6学年と令和2年度の中学校第2学年「同一生徒」の平均点を、それぞれ全国平均を100とした指数に換算し、伸び率を比較



の取組みを充実しながら「思考」を見ると、全国平均に近づいてきています。第4学年から第6学年までの間に、一定の思考力の向上が見られると言っています。

○**教委** 今後も、現在の

の観点度数分布により「山なり型」「分散型」「二極化型」と名付けて要因を明らかにする試みを行っています。

○**教委** 各学校ではどのようにこの結果を生かしていくのですか。

○**教委** 今後、結果を分析し、成果のあった取組みを全校に周知していき、学校は「授業改善推進プラン」を作成します。これが次のステップに上がるための指針となります。

○**教委** 「授業改善推進プラン」は、学校が調査結果から導き出した方向性を示したものです。昨年度と今年度はコロナ禍のために開催されませんでした。これまで生涯学習センターのホールに、全校長と教員が集まり、授業改善プランの発表を行っており、私も例年、出席してまいりました。報告書もまとめられています。報告書もまた、取り組んできた先生方の話を直接聞ける機会です。で、私たちにとても勉強になります。

○**教委** 「学力の向上」のための事業には、ほか何がありますか。

○**教委** 「教育課程に主体的・対話的で深い学びに関連した取組みを行う」こと、様々な授業をつなげる、小学校から中学校への接続をスムーズに行えるよう、「教育課程に小中連携に関連した取組みを行う」、また、読書習慣の

重要性から、「学校図書館の活用と充実」などを掲げています。結果を出すために、事業計画には具体的な取組みを示しています。

○**教委** 今後の事業は当然新しいものだけではなく、継続して実施していくものがほとんどです。しかし、継続して行う項目であっても取り組みの目標についてきちんと定め、その効果を見ながら決定していく必要があると思っています。

○**教委** 第2次教育振興基本計画策定当時の事業計画と比較してみると、ここ数年で、「学校の働き方改革」と「ICT教育」等の具体的な取組みが、全面的に出てくるようになりました。

○**教委** この3月末に教員を対象に実施した「教育の情報化」に対するアンケートでは、9割近くの教員がICT機器の活用について肯定的な回答をしています。

授業における有効活用については、各校における取組内容の共有や研修の充実をさらに図ってほしいと思います。

教育委員会と学校とのさらなる連携が必要である

○**教委** 教育長は4月の教育委員会の中で、「学力向上をはじめとする教育委員会の事業を進めていくには、教育委員と校長会の意見交換の場が必要であり、再開したい」と発言されました。

○**教委** 場の設定についてはぜひお願いしたいと、常々思っていました。そういう場を使って、校長先生からわれわれ教育委員に対して、学校運営や運営方針に対しての率直な話を聞かせてもらえることが大事だと思います。

○**教委** かつて、「青少年の健全育成」「ICT教育」「地域と学校の関わり」などをテーマに、校長会と教育委員会とが意見交換を行っていたことは聞いています。学校だよりには必ず目を通していますが、それだけではなく、意見交換の場では直接、話を伺えますし、貴重な情報を得たいと考えています。

○**教委** 次年度の計画を策定する時には、事務局が内容を一方的に決定するのではなく、校長会との意見交換等で得た情報も参考にしたいです。

地域社会の課題解決につなげた、生涯学習事業の学び

○**教委** 生涯学習分野は範囲も広く、「生涯学習」「生涯スポーツ」という捉え方もさまざまです。また、「生涯学習(スポーツ)」に取り組んでいるか」という設問には割と低い回答が多いです

(3面に続く)

(1面から続く)

らに重点を置く判断した事業、テコ入れが必要な事業を明確にする必要があり、令和3年度の事業は重要な位置付けにあると思います(1面・表1)。

学力向上の取り組みは続く

○**教委** 学校教育の事業の中で特に力を入れていくことはありますか。

○**教委** 特にこのことであれば、「学力の向上」です。このための取り組みで効果があると思われるのは「学力パワーアップサポート」の配置です。

令和元年度からは、かつての「学力向上指導員」を「学力パワーアップサ

ポーター事業」として新たに配置し、より一層強化しています。学力が伸び悩んでいる子どもには基礎・基本の学力の定着度を高める必要がありますから、この事業により、最初のつまづきの解決を図りたいです。

○**委員** 基本・基礎の定着を図ることが大切なことはみんなが分かっていることですが、「どうやって」が難しいところですね。

かつて、教育委員会だけでなく、小学校で行われていた「土曜塾」が紹介されていましたが、印象に残っています。基礎的な内容をドリルにより復し、問題が解けた子どもは先生のところにいき、マルを付けてもら

い、次の問題に挑戦する様子でした。この記事は、学力の量と質の問題を端的に物語っていると思います。

「量」の問題はいかに早く正解を出せるかであり、それによって子どもの意欲を引き出そうとするものです。しかし、この反復の取り組みだけでは、子どもたちがどのような考え、できなかつたところができるようになったのかという「自覚」、これが「質」の問題になります。確認はできません。「分かる」ということは覚えることではなく、体験を通して、分からないことが分かり、「そういうことだったのか」という自己理解に導くことが重要です。

○**教委** 習熟度別授業や少人数授業を行っている学校がありますが、これも基礎・基本の定着が十分ではない児童・生徒には効果があると考えています。

今年の2月に実施した「市の学力定着度調査」の結果が出ましたので、教育委員会の定例会でも、少しずつ良い結果が出ていると報告しました(表2)。国語では小学校第2学年が、数学では中学校第2学年が全国平均を超えました。しかし、観点別の「思考」の得点を見ると、小学校第4学年になると全国平均も本市においてもかなり下がっていて、ここが伸び悩みとなっているのが明らかです(表3)。

ところが、第6学年の「思考」を見ると、全国平均に近づいてきています。第4学年から第6学年までの間に、一定の思考力の向上が見られると言っています。

○**教委** この調査では、全国平均を100とした指数に換算して、同一集団の伸び率も比較しています。表から分かることはありますか(表4)。

○**教委** 令和2年度はコロナ禍の中ではありましたが、中学校第2学年では国語が全体で5ポイント、数学は全体で6ポイント伸びています。で、取り組みの方向性としてはよいと判断しています。

先ず教育委員会では、この結果をさらに深掘りした資料により分析結果を報告したところです。小学校の国語、算数の三つ

の取組みを充実しながら「思考」を見ると、全国平均に近づいてきています。第4学年から第6学年までの間に、一定の思考力の向上が見られると言っています。

○**教委** 今後の事業は当然新しいものだけではなく、継続して実施していくものがほとんどです。しかし、継続して行う項目であっても取り組みの目標についてきちんと定め、その効果を見ながら決定していく必要があると思っています。



重要性から、「学校図書館の活用と充実」などを掲げています。結果を出すために、事業計画には具体的な取組みを示しています。

○**教委** 今後の事業は当然新しいものだけではなく、継続して実施していくものがほとんどです。しかし、継続して行う項目であっても取り組みの目標についてきちんと定め、その効果を見ながら決定していく必要があると思っています。

○**教委** 第2次教育振興基本計画策定当時の事業計画と比較してみると、ここ数年で、「学校の働き方改革」と「ICT教育」等の具体的な取組みが、全面的に出てくるようになりました。

○**教委** この3月末に教員を対象に実施した「教育の情報化」に対するアンケートでは、9割近くの教員がICT機器の活用について肯定的な回答をしています。

授業における有効活用については、各校における取組内容の共有や研修の充実をさらに図ってほしいと思います。

教育委員会と学校とのさらなる連携が必要である

○**教委** 教育長は4月の教育委員会の中で、「学力向上をはじめとする教育委員会の事業を進めていくには、教育委員と校長会の意見交換の場が必要であり、再開したい」と発言されました。

○**教委** 場の設定についてはぜひお願いしたいと、常々思っていました。そういう場を使って、校長先生からわれわれ教育委員に対して、学校運営や運営方針に対しての率直な話を聞かせてもらえることが大事だと思います。

○**教委** かつて、「青少年の健全育成」「ICT教育」「地域と学校の関わり」などをテーマに、校長会と教育委員会とが意見交換を行っていたことは聞いています。学校だよりには必ず目を通していますが、それだけではなく、意見交換の場では直接、話を伺えますし、貴重な情報を得たいと考えています。

○**教委** 次年度の計画を策定する時には、事務局が内容を一方的に決定するのではなく、校長会との意見交換等で得た情報も参考にしたいです。

地域社会の課題解決につなげた、生涯学習事業の学び

○**教委** 生涯学習分野は範囲も広く、「生涯学習」「生涯スポーツ」という捉え方もさまざまです。また、「生涯学習(スポーツ)」に取り組んでいるか」という設問には割と低い回答が多いです

重要性から、「学校図書館の活用と充実」などを掲げています。結果を出すために、事業計画には具体的な取組みを示しています。

○**教委** 今後の事業は当然新しいものだけではなく、継続して実施していくものがほとんどです。しかし、継続して行う項目であっても取り組みの目標についてきちんと定め、その効果を見ながら決定していく必要があると思っています。

○**教委** 第2次教育振興基本計画策定当時の事業計画と比較してみると、ここ数年で、「学校の働き方改革」と「ICT教育」等の具体的な取組みが、全面的に出てくるようになりました。

○**教委** この3月末に教員を対象に実施した「教育の情報化」に対するアンケートでは、9割近くの教員がICT機器の活用について肯定的な回答をしています。

授業における有効活用については、各校における取組内容の共有や研修の充実をさらに図ってほしいと思います。

教育委員会と学校とのさらなる連携が必要である

○**教委** 教育長は4月の教育委員会の中で、「学力向上をはじめとする教育委員会の事業を進めていくには、教育委員と校長会の意見交換の場が必要であり、再開したい」と発言されました。

○**教委** 場の設定についてはぜひお願いしたいと、常々思っていました。そういう場を使って、校長先生からわれわれ教育委員に対して、学校運営や運営方針に対しての率直な話を聞かせてもらえることが大事だと思います。

○**教委** かつて、「青少年の健全育成」「ICT教育」「地域と学校の関わり」などをテーマに、校長会と教育委員会とが意見交換を行っていたことは聞いています。学校だよりには必ず目を通していますが、それだけではなく、意見交換の場では直接、話を伺えますし、貴重な情報を得たいと考えています。

○**教委** 次年度の計画を策定する時には、事務局が内容を一方的に決定するのではなく、校長会との意見交換等で得た情報も参考にしたいです。

地域社会の課題解決につなげた、生涯学習事業の学び

○**教委** 生涯学習分野は範囲も広く、「生涯学習」「生涯スポーツ」という捉え方もさまざまです。また、「生涯学習(スポーツ)」に取り組んでいるか」という設問には割と低い回答が多いです

重要性から、「学校図書館の活用と充実」などを掲げています。結果を出すために、事業計画には具体的な取組みを示しています。

○**教委** 今後の事業は当然新しいものだけではなく、継続して実施していくものがほとんどです。しかし、継続して行う項目であっても取り組みの目標についてきちんと定め、その効果を見ながら決定していく必要があると思っています。

○**教委** 第2次教育振興基本計画策定当時の事業計画と比較してみると、ここ数年で、「学校の働き方改革」と「ICT教育」等の具体的な取組みが、全面的に出てくるようになりました。

○**教委** この3月末に教員を対象に実施した「教育の情報化」に対するアンケートでは、9割近くの教員がICT機器の活用について肯定的な回答をしています。

授業における有効活用については、各校における取組内容の共有や研修の充実をさらに図ってほしいと思います。

教育委員会と学校とのさらなる連携が必要である

○**教委** 教育長は4月の教育委員会の中で、「学力向上をはじめとする教育委員会の事業を進めていくには、教育委員と校長会の意見交換の場が必要であり、再開したい」と発言されました。

○**教委** 場の設定についてはぜひお願いしたいと、常々思っていました。そういう場を使って、校長先生からわれわれ教育委員に対して、学校運営や運営方針に対しての率直な話を聞かせてもらえることが大事だと思います。

○**教委** かつて、「青少年の健全育成」「ICT教育」「地域と学校の関わり」などをテーマに、校長会と教育委員会とが意見交換を行っていたことは聞いています。学校だよりには必ず目を通していますが、それだけではなく、意見交換の場では直接、話を伺えますし、貴重な情報を得たいと考えています。

○**教委** 次年度の計画を策定する時には、事務局が内容を一方的に決定するのではなく、校長会との意見交換等で得た情報も参考にしたいです。

地域社会の課題解決につなげた、生涯学習事業の学び

○**教委** 生涯学習分野は範囲も広く、「生涯学習」「生涯スポーツ」という捉え方もさまざまです。また、「生涯学習(スポーツ)」に取り組んでいるか」という設問には割と低い回答が多いです

(3面に続く)